

ねん がつ この か
2022年10月9日

ねんかんたい しゅじつ
年間第28主日

きくち いさおだい しきょう
菊地功大司教 メッセージ

ルカ福音は、重い皮膚病を患っていた十人の人が、イエスによって癒やされた話を記しています。十人はイエスの勧めに従って祭司のところへ行く途中で癒やされますが、その中の一人だけがイエスのもとに戻ってきます。イエスに感謝するために戻ってきたのは、ユダヤ人から見れば神への信仰に忠実ではないと見なされていたサマリア人だけでありました。

それに対してルカ福音が記すイエスの言葉は、「神を賛美するために戻ってきたものはないのか」であって、受けた恵みに対して、神のもとに立ち返り、神を賛美するというその行為にこそ救いがあることを、「あなたの信仰があなたを救った」という言葉が示唆します。

すなわち、人間が抱える様々な困難が解決され幸せが確立することに救いがあるのではなく、受けた恵みを自覚しながら感謝のうちに神と共にあることにこそ救いがあるのだとイエスの言葉は教えています。神に感謝をささげ、神と共にいることによって良しと見なされたのは、正統な信仰を守っていると自負するユダヤ人ではなかったという話は、信仰を守るとはどういうことなのかを考えさせます。それは、信仰者の立ち位置が、自分自身のところにあるのか、神のところにあるのかの違いです。自分の幸せを優先する利己的な心を強く持つとき、わたしたちは神のもとには立っていません。そこに救いはあるのでしょうか。

パウロはテモテへの手紙に、「キリストと共に死んだのなら、キリストと共に生きるようになる。耐え忍ぶなら、キリストと共に支配するようになる。」と記しています。ここでも救いとは、自分自身の人間的な困難の解決にあるのではなく、キリストと共にいることにあるとパウロは指摘します。その上でパウロは、自分自身の苦しみは、他の人々が、「キリスト・イエスによる救いを永遠の栄光と共に得るため」に耐え忍んでいるのだと強調します。パウロの立ち位置は自分ではなく神のもとにあり、だからこそパウロは

イエスに倣って、他者の救いのために命を燃やし続けるのです。

アジア各地の司教協議会の連盟組織である FABC (アジア司教協議会連盟) の創立 50 年を記念して開催される総会が、10 月 12 日から 30 日まで、バンコクで開催されます。日本を含めアジア各国から司教の代表が集まります。どうか会議の成功のために、お祈りください。

FABC は、1970 年に教皇パウロ六世がマニラを訪問された際に集まったアジアの司教たちの合意に基づいて誕生しました。第二バチカン公会議の教会憲章で示された司教の団体性や協働性と翻訳される「コレジアリタス」を具体化し、アジアにおける教会の存在を更に福音に沿って具体化するための組織として誕生しました。

FABC はこの 50 年間、アジア全域において、三位一体の神をあかしし、イエスの福音を告げしらせるために、牧者である司教たちの交わりを通じて、福音宣教への共通理解を深めてきました。中でも、FABC は三つの対話、すなわち、「人々(特に貧しい人々)との対話、諸宗教との対話、多様な文化との対話」が、アジアでの宣教において共通する重要課題であると指摘を続けてきました。今回の総会のテーマも、「アジアの民として、ともに歩み続けよう」とされ、対話と連帯のうちに福音を具体的に生きる道を模索しようとしています。

教皇ヨハネ・パウロ二世は、使徒的勧告「アジアの教会」に、「(アジアの様々な) 宗教的価値は、イエス・キリストにおいて成就されることを待っているのです」(6) と記しています。わたしたちは、神のもとにしっかりと立ち位置を定め、すべての人の救いのために努力を続けたいと思います。